

令和3年度第1回対話ミーティング質疑応答(令和3年7月15日・20日開催)

区分	意見等	町の回答
1 コロナ	コロナ対策について、緊急事態宣言時、鹿部町は完全に施設を閉鎖していました。寂しい気もしていたが、今となっては良かったと思っています。今後ともお願いしたいです。	役場職員の感染が分かり、各施設も不安を感じていたため、厳しい制限をかけました。皆さまから様々な意見をいただき、判断材料となった、今後お願いします。また、コロナ感染予防対策をしっかりと行いながら、町内でコロナウイルス発生しても、出来るだけ小さな規模・人数で抑えられるよう努力します。
2 A級グルメ	干シタラコの開発は非常に興味深いです。もうすでに実用的、開発は進んでいますか。	令和2年度には試験中でしたが、令和3年度には販売したいと考えています。
3 対話ミーティング	対話ミーティングで事業を説明したのは、前々回は副町長、前回は各課長、今回は町長。町長が全ての事業を網羅しているので説明は聞きやすいが、わかりやすく説明するのも課長職の務めだと思うので、個人的にはそれぞれの事業は課長たちに説明してもらいたいです。	1期目の当選直後の対話ミーティングも私から説明したので、2期目の当選後以回目の対話ミーティングも私から説明したいとお願ひしました。課長たちはいつでも説明できる体制にあります。今後もやり方は検討していきます。
4 デジタルファースト宣言	デジタルファースト宣言では、デジタル技術でいろいろな住民サービスを向上するということが、例えば、施設の使用申請は役場までいかなければならないが、今後、パソコンやスマホから申請できるようになりますか。	将来的には施設の予約状況をパソコンで確認でき、申請もインターネット上で行え、最終的には使用料の支払いもキャッシュレス決済できるよう、進めていきたいと考えています。それ以外にも、税金のコンビニ納付・キャッシュレス決済、住民票等の証明書のコンビニ交付等、デジタル化によってできることはいろいろありますが、鹿部町にとってどういうサービスをデジタル化するとより効果的で便利になるのか今後見極めながら進めていきたいです
5 デジタルファースト宣言	デジタルファーストはどのくらいの期間で進めるのですか。	国がDX推進計画で令和8年までに進める目標を示しているが、鹿部町では令和5年度中までにできるものから進めたいと考えています。進め方として、まずは首長が宣言をする、機構としてデジタル課を置く、専門家を置く、そのあとに対応を行っていく流れとなっています。
6 ふるさと納税基金	令和2年度ふるさと納税の基金に積んだのは1,500万円で寄附額の1割に満たない。新庁舎の建設で基金が減っている。基金がどのくらいあれば安心できるのか。積み立ての割合を増やしてもらいたい。基金の積み立て方の考え方を教えてください。	基金がどのくらいあればいいのか正解はありません。いくら積むかはルール決めによります。